

XP-002509710

WPI / Thomson

AN - 2002-744798 [81]
 AP - JP20010039470 20010216
 CN - RA00GT-K RA00GT-M
 CPY - ICHP
 DC - B04 D21
 DCR - [1] 200757 CL
 DW - 200281
 IC - A61K35/20; A61K7/00; A61K7/48; A61K7/50; A61P17/12
 IN - NISHIBE Y
 LNKA- 2002-211552
 M1 - [01] M417 M423 M430 M782 M905 P943 Q254; RA00GT-K RA00GT-M
 MC - B04-F10 B14-N17 B14-R01 D08-B09A1
 PA - (ICHP) ICHIMARU PHARCOS INC
 PN - JP2002241289 A 20020828 DW200281
 PR - JP20010039470 20010216
 XIC - A61K-035/20; A61K-007/00; A61K-007/48; A61K-007/50; A61P-017/12;
 A61K-008/00; A61K-008/30; A61K-008/68; A61K-008/96; A61K-008/99;
 A61P-017/00; A61Q-019/00; A61Q-019/10
 AB - NOVELTY :
 Fermented milk for skin conditioners.
 - DETAILED DESCRIPTION :
 Cornification and acanthosis ameliorating and softening agents for
 dermatologic, cosmetic and bathing compositions composed of an
 effective ingredient of fermented milk extract for improvement of skin
 conditions.
 - USE :
 Amelioration and softening of coarse skin. Has Dermatologic and
 cosmetic applications.
 - ADVANTAGE :
 Fermented milk for improvement of skin conditions.
 - SPECIFIC COMPOUNDS :
 Fermented milk with lactic acid bacteria including Lactobacillus,
 Streptococcus, Leuconostoc, Bifidobacterium and Pediococcus, preferably
 Lactobacillus bulgaricus and Streptococcus thermophilus.
 - EXAMPLE :
 In milk protein aqueous solution (30 L), Lactobacillus bulgaricus (1%)
 was inoculated and cultured at 40 [deg]C for 3 days. The fermented
 mixture was sterilized at 80 [deg]C, treated with active charcoal and
 filtered through membrane filter. A dermatologic composition (wt.%)
 composed of the extract (10.00), ceramide (0.01), a surfactant (0.50),
 ethanol and 1,3-butylene glycol (5.00 each), purified water (79.29)
 and triethanolamine (0.20) was spread on cubitus of volunteer twice
 daily for 4 weeks and their viscoelasticity was determined. Their
 plasticity and tonicity showed improved skin conditions.
 ICAI- A61K35/20; A61K8/00; A61K8/68; A61K8/96; A61K8/99; A61P17/12;
 A61Q19/00; A61Q19/10
 ICCI- A61K35/20; A61K8/00; A61K8/30; A61K8/96; A61P17/00; A61Q19/00;
 A61Q19/10
 INW - NISHIBE Y
 IW - CORNIFICATION AMELIORATE SOFTEN AGENT COSMETIC COMPOSITION MAINLY
 COMPOSE FERMENTATION MILK EXTRACT IMPROVE SKIN CONDITION

IWW - CORNIFICATION AMELIORATE SOFTEN AGENT COSMETIC COMPOSITION MAINLY
COMPOSE FERMENTATION MILK EXTRACT IMPROVE SKIN CONDITION

NC - 1

NPN - 1

OPD - 2001-02-16

PAW - (ICHP) ICHIMARU PHARCOS INC

PD - 2002-08-28

TI - Cornification and acanthosis ameliorating and softening agents for
cosmetic compositions mainly composed of fermented milk extract for
improvement of skin conditions

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-241289

(P2002-241289A)

(43) 公開日 平成14年 8 月28日 (2002. 8. 28)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード* (参考)
A 6 1 K 35/20		A 6 1 K 35/20	4 C 0 8 3
7/00		7/00	K 4 C 0 8 7
7/48		7/48	
7/50		7/50	
A 6 1 P 17/12		A 6 1 P 17/12	
審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 21 頁)			

(21) 出願番号 特願2001-39470(P2001-39470)

(22) 出願日 平成13年 2 月16日 (2001. 2. 16)

(71) 出願人 000119472

一丸ファルコス株式会社

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の 1

(72) 発明者 西部 幸修

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の 1

一丸ファルコス株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 肥厚化角質層柔軟化剤

(57) 【要約】

【課題】新規で安全な化粧料組成物を提供することを課題とする。

【解決手段】発酵乳エキスを有効成分として含有する肥厚化角質層柔軟化剤、及び肥厚化角質層柔軟化剤を有効成分として含有する皮膚化粧料組成物、洗浄用化粧料組成物及び浴用剤を提供するものである。

【効果】発酵乳エキスを有効成分として含有する肥厚化角質層柔軟化剤又は皮膚化粧料組成物、洗浄用化粧料組成物及び浴用剤は肥厚化角質層柔軟化作用に優れ、柔軟化すると同時に更に黒ずみ等の美容上の改善や肌荒れ等の皮膚疾病を改善するものであり、天然物由来であることから人体に対する安全性も高く、肥厚化角質層に関する美容や医療において極めて有用なものである。

【特許請求の範囲】

【請求項1】発酵乳エキスを有効成分として含有することを特徴とする肥厚化角質層柔軟化剤。

【請求項2】請求項1記載の肥厚化角質層柔軟化剤を有効成分として含有すること特徴とする皮膚化粧料組成物、洗浄化粧料組成物及び浴用剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、発酵乳エキスを有効成分として含有する、肥厚化した角質層の柔軟化や、肥厚化角質層部位のごわつき感等の硬質化や黒ずみ等の美容上の改善、更には角化症や肌荒れ、ひび割れ等の皮膚疾病の改善に有効な肥厚化角質層柔軟化剤、又は肥厚化角質層柔軟化剤を有効成分として含有する皮膚化粧料組成物、洗浄化粧料組成物及び浴用剤への応用に関するものである。

【0002】

【従来の技術】肘、膝、踝又は踵等の身体を動かすことで物理的な刺激や負荷を受けやすい部位は、他の部位に比べて角質層が厚く、汗腺数が少ないと言われている。角質層が厚くなる、すなわち肥厚化角質層となることで身体は物理的な外部刺激から保護されるが、肥厚化することで、逆にゴワつきが感じられる等角質の硬質化や黒ずみの原因となる等、美容上の問題が発生する。又、肥厚化角質層部位は他の部位に比べて非常に乾燥しやすく、角化症、肌荒れ、ひび割れ等の皮膚疾病の原因になると考えられている。

【0003】このように乾燥して硬質化しがちな肥厚化角質層部位の改善方法として、これまで保湿剤や界面活性剤等が角質柔軟化作用を有する有効成分として化粧料に配合されている。更に、近年では肥厚化した角質層を擦り取るためにスクラブ粒子等を化粧料に配合することが行われてきている。

【0004】以前より肥厚化角質層部位を柔軟化して、皮膚状態の改善を試みる様々な開発が行われてきているが、有効成分に関しては、その柔軟化作用及びその成分の安定性、適用する人体に対する安全性の面で未だ十分な成果は挙げられていないのが現状である。更に、スクラブ粒子等を用いる場合は、柔軟化と同時に改善が望まれる肌荒れ等の皮膚疾病のさらなる悪化をもたらしている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】このような事情に鑑み、本発明者は、肘、膝、踝又は踵等の肥厚化角質層部位のより優れた柔軟化と、それに伴う美容上の改善、更には、角化症や肌荒れ、ひび割れ等の皮膚疾病を改善する方法について検討を行った。その結果、発酵乳エキスを有効成分とする優れた肥厚化角質層の柔軟化作用と美容上及び皮膚疾病等の改善効果が発現するという知見を得た。

【0006】

【課題を解決するための手段】即ち、本発明は発酵乳エキスを有効成分として含有する肥厚化角質層柔軟化剤、又は肥厚化角質層柔軟化剤を有効成分として含有する皮膚化粧料組成物、洗浄化粧料組成物及び浴用剤を提供するものである。

【0007】

【発明の実施の形態】本発明の発酵乳エキスとは、獣乳を主成分とする培養基に乳酸菌を接種して乳酸発酵を行うことで得られるエキスである。

【0008】培養基として用いられる獣乳は、例えば人乳、牛乳、山羊乳、豚乳等の動物から得られる乳成分の少なくとも1種以上であればいずれも使用でき、特に入手の容易さや製造工程、発酵乳エキスの機能等の点から牛乳を用いるのが好ましい。又、乳成分として乳そのものだけではなく、例えば乳タンパク質水溶液や乳タンパク質分解液、脱脂粉乳及び脱脂粉乳にブドウ糖を添加した溶液等の少なくとも1種以上を用いることもできる。

【0009】乳酸発酵に用いられる乳酸菌は、乳酸発酵能を有する微生物であればいずれも使用することができ、例えば、*Lactobacillus rimae*、*Lactobacillus divergens*、*Lactobacillus carnis*、*Lactobacillus piscicola*、*Lactobacillus acidophilus*、*Lactobacillus amylophilus*、*Lactobacillus animalis*、*Lactobacillus brevis*、*Lactobacillus casei*、*Lactobacillus curvatus*、*Lactobacillus bulgaricus*、*Lactobacillus delbrueckii*、*Lactobacillus fermentum*、*Lactobacillus fructivorans*、*Lactobacillus fructosus*、*Lactobacillus helveticus*、*Lactobacillus hilgardii*、*Lactobacillus homohiochii*、*Lactobacillus kefir*、*Lactobacillus malefermentans*、*Lactobacillus murinus*、*Lactobacillus paracasei*、*Lactobacillus paracasei subsp. tolerans*、*Lactobacillus parakefir*、*Lactobacillus pentosus*、*Lactobacillus plantarum*、*Lactobacillus reuteri*、*Lactobacillus rhamnosus*、*Lactobacillus sakei*、*Lactobacillus confusus*、*Lactobacillus viridescens*、*Lactobacillus johnsonii*、*Lactobacillus viscosus*、*Lactobacillus bunchneri*、*Lactobacillus fermentatae*、*Lactobacillus acidophil-aerogenes*、*Lactobacillus leichmannii*、*Lactobacillus gasser*、*Lactobacillus bifidus*、*Lactobacillus jugurt*、*Lactobacillus caucasicus*、*Lactobacillus arabinosus*、*Lactobacillus kunkeei*、*Lactobacillus nagelii*、*Lactobacillus fornicalis*、*Lactobacillus pentoaceticus*、*Lactobacillus xylophilus*、*Lactobacillus minutus*、*Lactococcus lactis subsp. cremoris*、*Lactococcus lactis subsp. hordniae*、*Lactococcus plantarum*、*Lactococcus raffinolactis*、*Lactococcus garvieae*、*Lactococcus piscium*、*Streptococcus durans*、*Streptococcus faecalis*、*Streptococcus faecium*、*Streptococcus bovis*

s, *Streptococcus equinus*, *Streptococcus mutans*, *Streptococcus salivarius*, *Streptococcus thermophilus*, *Streptococcus agalactiae*, *Streptococcus mitis*, *Streptococcus pyogenes*, *Streptococcus pneumoniae*, *Streptococcus lactis*, *Streptococcus dysgalactiae*, *Streptococcus sanguis*, *Streptococcus acidominimus*, *Streptococcus avium*, *Streptococcus uberis*, *Streptococcus cremoris*, *Streptococcus diacetylactis*, *Sporolactobacillus inulinus*, *Leuconostoc lactis*, *Leuconostoc dextranicum*, *Leuconostoc mesenteroides*, *Leuconostoc oenos*, *Leuconostoc paramesenteroides*, *Leuconostoc cremoris*, *Leuconostoc citrovorum*, *Bifidobacterium longum*, *Bifidobacterium breve*, *Bifidobacterium bifidum*, *Bifidobacterium infantis*, *Pediococcus halophilus*, *Pediococcus acidilactis*, *Pediococcus cerevisiae*, *Pediococcus pentosaceus*, *Pediococcus urinae-equi*等の少なくとも1種以上を乳酸発酵に供試することができる。特に乳酸発酵において工業的に広範囲で利用されている点で *Lactobacillus bulgaricus* 又は、*Streptococcus thermophilus* を用いるのが好ましい。

【0010】pHや温度等の発酵条件や時間等は各菌種によって任意に設定でき、発酵後の培養基をそのまま発酵乳エキスとすることができる。又、発酵後の培養基を必要に応じてろ過、遠心分離、抽出、精製、滅菌等本発明の本質を損なわない範囲内で任意の操作を適宜加えることも可能であり、得られたエキスを希釈、濃縮、乾燥することもできる。尚、発酵乳エキスの機能及び外観等の点で発酵後の培養基をろ過したものが好ましい。

【0011】本発明の発酵乳エキスは、そのまま肥厚化角質層柔軟化剤として利用できる他、更に皮膚化粧品組成物、洗浄用化粧品組成物及び浴用剤へ含有できるが、その含有量としては特に規定するものではなく、肥厚化角質層柔軟化剤又は皮膚化粧品組成物、洗浄用化粧品組成物及び浴用剤の種類、品質、期待される作用の程度によって若干異なり、通常、製剤全量中、培養液換算として0.0001~50重量%の濃度範囲で使用でき、特に0.001~10重量%の濃度範囲が好ましい。

【0012】又、本発明の肥厚化角質層柔軟化剤又は皮膚化粧品組成物、洗浄用化粧品組成物及び浴用剤の剤型は任意であり、カプセル、粉末、顆粒、固形、液体、ゲル、気泡、乳液、クリーム、軟膏、シート等の形態で配合して用いることができる。

【0013】その利用分野は、例えば、各種の外用製剤類（動物用に使用する製剤も含む）全般において利用でき、具体的には、カプセル、丸剤、錠剤、粉末、顆粒、固形、液体、ゲル、気泡、エマルジョン、シート、ミスト、スプレー剤等利用上の適当な形態の1)医薬品類、2)医薬部外品類、3)皮膚用化粧品類（例えば、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ローション、オイル、パック等の基礎化粧品、マッサージ用剤、クレンジング用剤、パッ

ブ剤、プラスター剤、テープ剤、シート剤、貼付剤、エアゾール剤等）、4)洗浄用化粧品類（例えば、ボディシャンプー、洗顔料、石鹸、クレンジング料等）、5)浴湯に投じて使用する浴用剤、等が挙げられる。

【0014】尚、本発明の肥厚化角質層柔軟化剤又は皮膚化粧品組成物、洗浄用化粧品組成物及び浴用剤への添加の方法については、予め加えておいても、製造途中で添加しても良く、作業性を考えて適宜選択すれば良い。

【0015】尚、本発明の肥厚化角質層柔軟化剤又は皮膚化粧品組成物、洗浄用化粧品組成物及び浴用剤は、前記の必須成分に加え必要に応じ、本発明の効果を損なわない範囲内で、下記に例示する成分や添加剤を任意に選択・併用して製造することができ、製剤中への含有量は、特に規定しないが、通常、0.0001~50重量%が好ましい。

【0016】(1)各種油脂類

アボガド油、アーモンド油、ウイキョウ油、エゴマ油、オリーブ油、オレンジ油、オレンジラファード油、ゴマ油、カカオ脂、カミツレ油、カロット油、キューカンバー油、牛脂脂肪酸、クイナツツ油、サフラワー油、シア脂、液状シア脂、大豆油、ツバキ油、トウモロコシ油、ナタネ油、パーシク油、ヒマシ油、綿実油、落花生油、タートル油、ミンク油、卵黄油、パーム油、パーム核油、モクロウ、ヤシ油、牛脂、豚脂又はこれら油脂類の水素添加物（硬化油等）等。

【0017】(2)ロウ類

ミツロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カンデリラロウ、モンタンロウ、セラックロウ、ライスワックス、スクワレン、スクワラン、プリスタン等。

【0018】(3)鉱物油

流動パラフィン、ワセリン、パラフィン、オゾケライド、セレンシ、マイクロクリスタンワックス等。

【0019】(4)脂肪酸類

ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、ドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ウンデシレン酸、トール油、ラノリン脂肪酸等の天然脂肪酸、イソノナン酸、カプロン酸、2-エチルブタン酸、イソペンタン酸、2-メチルペンタン酸、2-エチルヘキサン酸、イソペンタン酸等の合成脂肪酸。

【0020】(5)アルコール類

エタノール、イソピロパノール、ラウリルアルコール、セタノール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、ラノリルアルコール、コレステロール、フィトステロール、フェノキシエタノール等の天然アルコール、2-ヘキシルデカノール、イソステアリルアルコール、2-オクタリドデカノール等の合成アルコール。

【0021】(6)多価アルコール類

酸化エチレン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ポリエチレングリコール、酸化プロピレン、プロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ペンチレングリコール、グリセリン、ペンタエリトリール、トレイトール、アラビトール、キシリトール、リビトール、ガラクトール、ソルビトール、マンニトール、ラクチトール、マルチトール等。

【0022】(7)エステル類

ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸オレイル、オレイン酸デシル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、フタル酸ジエチル、フタル酸ジブチル、酢酸ラノリン、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコール等。

【0023】(8)金属セッケン類

ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウム、パルミチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛等。

【0024】(9)ガム質、糖類又は水溶性高分子化合物
アラビアゴム、ベンゾインゴム、ダンマルゴム、グアヤク脂、アイルランド苔、カラヤゴム、トラガントゴム、キャロブゴム、クインシード、寒天、カゼイン、乳糖、果糖、ショ糖又はそのエステル、トレハロース又はその誘導体、デキストリン、ゼラチン、ペクチン、デンプン、カラギーナン、カルボキシメチルキチン又はキトサン、エチレンオキシド等のアルキレン(C2~C4)オキシドが付加されたヒドロキシアルキル(C2~C4)キチン又はキトサン、低分子キチン又はキトサン、キトサン塩、硫酸化キチン又はキトサン、リン酸化キチン又はキトサン、アルギン酸又はその塩、ヒアルロン酸又はその塩、コンドロイチン硫酸又はその塩、ヘパリン、エチルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシエチルセルロース、カルボキシエチルセルロースナトリウム、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、結晶セルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、ポリビニルメタアクリレート、ポリアクリル酸塩、ポリエチレンオキシドやポリプロピレンオキシド等のポリアルキレンオキシド又はその架橋重合体、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレンイミン等。

【0025】(10)界面活性剤

アニオン界面活性剤(アルキルカルボン酸塩、アルキルスルホン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルリン酸エステル塩)、カチオン界面活性剤(アルキルアミン塩、アルキル四級アンモニウム塩)、両性界面活性剤:カルボン酸型両性界面活性剤(アミノ型、ペタイン型)、硫酸エステル型両性界面活性剤、スルホン酸型両性界面活性剤、リン酸エステル型両性界面活性剤、非イオン界面活性剤(エーテル型非イオン界面活性剤、エーテルエステル型非イオン界面活性剤、エステル型非イオン界面活性剤、ブロックポリマー型非イオン界面活性剤、含窒素型非イオン界面活性剤)、その他の界面活性剤(天然界面活性剤、タンパク質加水分解物の誘導体、高分子界面活性剤、チタン・ケイ素を含む界面活性剤、フッ化炭素系界面活性剤)等。

【0026】(11)各種ビタミン類

ビタミンA群:レチノール、レチナール(ビタミンA1)、デヒドロレチナール(ビタミンA2)、カロチン、リコピン(プロビタミンA)、ビタミンB群:チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩(ビタミンB1)、リボフラビン(ビタミンB2)、ピリドキシン(ビタミンB6)、シアノコバラミン(ビタミンB12)、葉酸類、ニコチン酸類、パントテン酸類、ビオチン類、コリン、イノシトール類、ビタミンC群:ビタミンC酸又はその誘導体、ビタミンD群:エルゴカルシフェロール(ビタミンD2)、コレカルシフェロール(ビタミンD3)、ジヒドロタキステロール、ビタミンE群:ビタミンE又はその誘導体、ユビキノール類、ビタミンK群:フィトナジオン(ビタミンK1)、メナキノール(ビタミンK2)、メナジオン(ビタミンK3)、メナジオール(ビタミンK4)、その他、必須脂肪酸(ビタミンF)、カルニチン、フェルラ酸、 γ -オリザノール、オロト酸、ビタミンP類(ルチン、エリオシトリン、ヘスペリジン)、ビタミンU等。

【0027】(12)各種アミノ酸類

バリン、ロイシン、イソロイシン、トレオニン、メチオニン、フェニルアラニン、トリプトファン、リジン、グリシン、アラニン、アスパラギン、グルタミン、セリン、システイン、シスチン、チロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、グルタミン酸、ヒドロキシリジン、アルギニン、オルニチン、ヒスチジン等や、それらの硫酸塩、リン酸塩、硝酸塩、クエン酸塩、或いはピロリドンカルボン酸のごときアミノ酸誘導体等。

【0028】(13)植物又は動物系原料由来の種々の添加物

これらは、添加しようとする製品種別、形態に応じて常法的に行われる加工(例えば、粉碎、製粉、洗浄、加水分解、発酵、精製、圧搾、抽出、分画、ろ過、乾燥、粉末化、造粒、溶解、滅菌、pH調整、脱臭、脱色等を任意に選択、組合わせた処理)を行い、各種の素材から任

意に選択して供すれば良い。

【0029】尚、抽出に用いる溶媒については、供する製品の使用目的、種類、或いは後に行う加工処理等を考慮した上で選択すれば良いが、通常では、水、メタノール、エタノール、プロピルアルコール、イソプロピルアルコール、ブタノール、イソブタノール等の低級アルコール或いは含水低級アルコール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン等の多価アルコール或いは含水多価アルコール、アセトン、酢酸エチル等の各種有機溶媒の中から選ばれる1種若しくは2種以上の混液を用いるのが望ましい。但し、用途により有機溶媒の含有が好ましくない場合においては、水のみを使用したり、あるいは抽出後に除去しやすいエタノールを採用し、単独又は水との任意の混液で用いたりすれば良く、又、搾取抽出したもので良い。

【0030】原料とする具体的な植物(生薬)としては、例えば、アーモンド(へん桃)、アイ(藍葉)、アオカズラ(清風藤)、アオキ(青木)、アオギリ又はケナシアオギリ(梧桐)、アオツツラフジ(木防已)、アオテンマ、アカシア、アカショウマ(赤升麻)、アカスグリ「果実」、アカツメクサ、アカブドウ、アカミノキ(ログウッド)、アカメガシワ(赤芽柏)、アカミノアカネ又はセイヨウアカネ又はアカネ(茜草根)、アカヤジオウ又はジオウ(地黄)、アギ(阿魏)、アキカラマツ、アキニレ(榔榆皮)、アグアイー・グアスー、アグアヘ(オオミテングヤシ)、アケビ(木通)、アサ(麻子仁)、マルバアサガオ又はアサガオ(牽牛子)、アジサイ(紫陽花)、アシタバ(明日葉)、アズキ(赤小豆)、アスナロ、アセロラ、アセンヤク(阿仙薬)、アチラ(ショクヨウカンナ)、アニス、アビウ、アビウラーナ、アブラナ、アベマキ「果実」、アボカド、アマ、アマチャ(甘茶)、アマチャヅル、アマドコロ(玉竹)、アマナ(光慈姑)、アマランサス(ヒユ、ハデイトウ、ヒモゲイトウ、センニンコク、スギモリゲイトウ、ホソアオゲイトウ、アオゲイトウ、ハリビユ、アオスズラン、アマラントウス・ヒボコンドリクス)、アミガサユリ又はバイモ(貝母)、アリストロメリア(ユリズイセン)、アルカナ(アルカンナ)、アルガローボ(キャベ)、アルテア、アルニカ、アルピニア又はカツマダイ(ソウズク)、アロエ(蘆薈)、アロエベラ、アンジェリカ、アンズ又はホンアンズ(杏仁)、アンソッコウ(安息香)、イエローサボテ、イガコウゾリナ(地胆頭)、イカリソウ又はヤチマタイカリソウ(インヨウカク)、イグサ(灯心草)、イタドリ(虎杖根)、イチイ(一位)、イチゴ、イチジク(無花果「果実、葉」)、イチハツ(一初)、イチビ(冬葵子)、イチヤクソウ(一葉草)、イチョウ(銀杏「種子、葉」)、イトヒメハギ(遠志)、イナゴマメ、イヌナズナ(テイレキシ)、イヌビユ(ホナガイヌビユ)、イネ「種子、種皮」、イノンド「種子」、イブキジャコウソウ、イラクサ、イランイラン、イワタバコ(岩高苺)、イワヒバ又はイワマツ(卷柏)、ウーロン茶、ウイキョウ

(茴香)、ウィート(チブサノキ)、ウキヤガラ(三稜)、ウグイスカグラ「果実」、ヒメウイキョウ、ウコン(鬱金)、ウキクサ(浮萍)、ウスバサイシン又はケイリンサイシン又はオウシュウサイシン(細辛)、ウスベニアオイ、ウスベニタチアオイ、ウチョウラン、ウツボグサ(夏枯草)、ウド又はシシウド(羌活、独活、唐独活)、ウニャデガト(ウンカリア、キャッツクロー)、ウバ茶、ウメ(烏梅「種子、果肉」)、ウラジロガシ、ウワウルシ(クサコケモモ)、ウンシュウミカン(陳皮)、ウンボク、エストラゴン、エゾウコギ(蝦夷五加)、エゾスズラン、エチナシ(ホソバムラサキバレンギク)、エニシダ、エノキタケ(榎茸)、エビスグサ又はカッシア・トーラ(決明子)、エルカンプレ、エルダーベリー「果実」、エレミ、エリンギ又はプレロータスエリンギ、エンジュ(槐花、槐花米)、オウギ又はキバナオウギ(黄耆)、ナルコユリ又はカギクマルバナコユリ(黄精)、オウヒササノユキ又はササノユキ、オウレン(黄連)、オオガタホウケン、オオカラスウリ(カロコン)、オオグルマ(土木香)、オオツツラフジ(防己)、オオバコ(車前子、車前草)、オオバナアザミ(祁州漏芦、白頭翁)、オオハシバミ(榛子)、オオハシラサボテン、オオバナオケラ又はオケラ(白朮)、オオバナサルズベリ(バナバ)、オオバヤシャブシ「果実」、オオホシグサ(穀精草)、オオミアカテツ、オオミサンザシ又はサンザシ(山査子)、オオムギ(大麦)、オカ、オカゼリ(蛇床子)、オクラ「果実」、オグルマ(旋覆)、オクルリヒゴタイ(禹州漏芦、藍刺頭)、オタネニンジン又はトチバニンジン(人參)、オトギリソウ又はコゴメバオトギリソウ又はセイヨウオトギリソウ(弟切草)、オドリコソウ(続断)、オナモミ(蒼耳子)、オニグルミ、オニドコロ又はトコロ又はナガドコロ(ヒカイ)、オニノヤガラ(天麻)、オニユリ又はササユリ又はハカタユリ(百合)、オノエラン、オノニス、オヒョウ(裂葉榆)、オミナエシ(敗醬)、オユーコ、オランダカラシ(クレソン)、オランダゼリ、オランダビユ、オランダミツバ、オリーブ「果実、種子、葉」、オレガノ、オレング「果実、果皮」、カイケイジオウ(熟地黄)、カカオ「果実、果皮、種子」、カキ(柿蒂「葉」)、カキガズラ(釣藤鈎)、カキドオシ又はカントリソウ(蓮銭草)、カキラン、ガクアジサイ、カシア、カジノキ(楮実「果実」)、ガジュツ(莢朮)、カシワ(榲桲、榲桲葉)、カスカリラ、カスカラサグラダ、カスミソウ、カセンソウ、カニクサ(金沙藤)、カニーワ、カーネーション、カノコソウ(吉草根)、カバ、カバノキ又はシダレカンバ(白樺)、ガーベラ、カボチャ、カボックノキ「種子」、カホクサンショウ(蜀椒)、ガマ(蒲黄)、カミツレ又はローマカミツレ、カミヤツデ(通草)、カムカム(カモカモ)、カラー、カラクサケマン、カラスウリ又はシナカラスウリ(王瓜)、カラスビシャク(半夏)、カラスムギ、ガラナ「種子」、カラホオ(厚朴)、カラヤ、ガリュウ、カリン(木瓜)、ガルシニア、カワミドリ、カワラサイコ(委陵

菜、翻白草)、カワヂシャ、カワラタケ、カワラナデシコ(石竹)又はエゾカワラナデシコ(瞿麦、瞿麦子)、カワラニンジン(青蒿)、カワラヨモギ(茵陈蒿)、カンスイ(甘遂)、カンゾウ(甘草)、カンタラアサ、カンドリラ、カントウ、カンナ、カンラン、キイチゴ(エゾイチゴ、オランダイチゴ、エビガライチゴ、ナワシロイチゴ、モミジイチゴ、ヨーロッパキイチゴ)、キウイ「果実、葉」、キカラスウリ(瓜呂根)、キキョウ(桔梗、桔梗根)、キク(菊花、シマカンギク、チョウセンノギク)、キクタニギク、キササゲ(梓実)、ギシギシ(羊蹄根)、キジツ(枳実)、キズタ、キダチアロエ、キダチハッカ、キナ、キナノキ(シンコーナ、アカキナノキ)、キヌア(キノア)、キハダ(黄柏)、ギムネマ・シルベスタ、キメンカク、キャベツ、キャベブ「未熟果」、キャラウエー、キュウリ、ギョリュウ(西河柳、てい柳)、キラジャ・サボナリア、キラヤ、キランソウ(金瘡小草)、キンカン「果実」、ギンセカイ、キンブセン、キンマ、キンミズヒキ(仙鶴草)、キンラン、ギンラン、キンリョウヘン、グアバ・ヴェルメーリヤ、グアバ「果実」、グアユーレ、クエルクス・インフェクトリア(没食子)、ククイナツツ、クゲヌマラン、クコ(枸杞、枸杞子、枸杞葉、地骨皮)、クサスギカズラ(天門冬)、クズ(葛根)、クスノキ、グースベリー「果実」、クソニンジン(黄花蒿)、クティティリバー、クチナシ(山梔子)、クヌギ(樺ソウ)、クブアス、クベバ、クマザサ、クマツヅラ(馬鞭草)、クララ(苦参)、クランベリー「果実」、クリ「種子、果実、渋皮」、クルクリゴ・ラチフォリア「果実」、グレープフルーツ「果実・葉」、クロウメモドキ、クロガネモチ(救必応)、カメバヒキオコシ又はクロバナヒキオコシ又はヒキオコシ(延命草)、クローブ(丁香、丁香)、グンバイナズナ(セキメイ、セキメイシ)、ケイガイ(荊芥、荊芥穂)、ケイトウ(鶏冠花、鶏冠子)、ゲツカビジン、ゲツケイジュ(月桂樹)、ケナシサルトリイバラ(土茯苓、山帰来)、ゲンチアナ、ゲンノショウコ(老鶴草)、ケンボナシ(キグシ)、コウキセッコク、キシユミカン(コウジ、タチバナ、オオベニミカン、フクレミカン、サガミコウジ、ボンカン、サンタラ(橘皮))、コウシンバラ(月季花)、コウスイハッカ、コウゾ「果実」、コウチャ(紅茶)、コウホネ(川骨)、コウホン(藁本、唐藁本)、コウリヤン、コウリョウキョウ(高良姜)、コエンドロ「果実」、コオウレン(胡黄连)、コガネバナ(黄ゴン)、コケモモ(越橘)、ココヤシ「果実」、ゴシュユ(呉茱萸)、ゴショイチゴ(覆盆子)、コショウ(胡椒)、コスモス、コパイパバルサム、コーヒー「種子、葉」、コブシ又はモクレン(辛夷)、ゴボウ(牛蒡、牛蒡子)、コボタンヅル、ゴマ(胡麻)、ゴマノハグサ(玄参)、ゴミシ(五味子)、サネカズラ又はビナンカズラ又はマツバサ、コムギ(小麦)、米又は米糠「赤糠、白糠」、コメ油、コーラ・アクミナタ「種子」、コーラベラ「種子」、コロニーリヤ、コロハ「果実」、コロ

ボ、コンズランゴ、コンブ、コンニャク、コンフリー(罂粟草)、サイザル(サイザルアサ)、サイハイラン、サカネラン(エゾサカネラン)、サキシマボタンヅル又はシナボタンヅル又はシナセンニンソウ(威霊仙)、サクラ(オオシマザクラ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガシ、マメザクラ、ミヤマザクラ、ソメイヨシノ、タカネザクラ、カスミザクラ、コヒガン、サトザクラ、カンザクラ「葉、花、果実、樹皮(桜皮)」)、サクランボ、ザクロ、ササ、ササバギンラン、サザンカ、サジオモダカ(沢瀉)、サツマイモ、サトウキビ、サトウダイコン、サネブトナツメ(酸棗仁)、サフラン(番紅花、西紅花)、サボジラ、サボテアマリヨ、ザボン「果実」、ザボンソウ、サーモンベリー「果実」、サラシナショウマ(升麻)、サランシトウ(砂藍刺頭)、サルビア(セージ)、サワギキョウ(山梗菜)、サワグルミ(山胡桃)、サンカクサボテン、サングレデグラード(クロトン)、サンシクヨウソウ、サンシチニンジン(三七人參)、サンシュユ(山茱萸)、サンショウ(山椒)、サンズコン(山豆根)、シア(カリテ)、シアンノキ「果実」、シイタケ(椎茸)、シオン(紫苑)、ジキタリス、シクンシ(使君子)、シソ又はアオジソ又はチリメンジソ又はカタメンジソ(紫蘇葉、紫蘇子)、シタン、シナノキ、シナホオノキ、シナレンギョウ(連翹)、シメジ(ヒンシメジ、シャカシメジ、ハタケシメジ、オシロイシメジ、ブナシメジ、ホンジメシ、シロタモギタケ)、シモクレン(辛夷)、シモツケソウ、ジャガイモ、シャクヤク(芍薬)、シャジン(沙参)、ジャスミン(マツリカ)、ジャノヒゲ(麦門冬)、シュクコンカスミソウ、シュクシャミツ(砂仁、縮砂)、ジュズダマ、シュロ「果実」、シュンラン、ショウガ(生姜)、ジョウザンアジサイ(常山)、ショウブ(菖蒲、菖蒲根)、ショズク「果実」、シラカシ「種子」、シラン(ビャクキュウ)、シロゴチャウ「種子」、シロツメクサ(クローバー)、シロトウアズキ(鶏骨草)、シロバナイリス(ニオイイリス)、シロバナツタ「花」、シロミナンテン(南天実)、シンコナサクシルブラ、ジンチョウゲ(瑞香、瑞香花、沈丁花)、シンナモン、シンナモムム・カッシア(桂皮)、スイカ(西瓜)、スイカズラ(金銀花、忍冬)、スイバ(酸模)、スイムベリー「果実」、スターアップル、ステビア、ストロベリー「果実」、スズサイコ(徐長卿)、スギナ(問荊)、スベリヒユ(馬齒けん、馬齒けん子)、スモモ「果実」、スルگران(オラン)、セイヨウアカマツ「球果」、セイヨウカラマツ、セイヨウキズタ、セイヨウグルミ、セイヨウサンザシ、セイヨウスノキ、セイヨウタンポポ、セイヨウトチノキ(マロニエ)、セイヨウナシ「果実」、セイヨウナツユキソウ、セイヨウニワトコ(エルダー)、セイヨウネズ(ジュニパー、杜松)、セイヨウノコギリソウ(ミルフォイル)、セイヨウバラ、セイヨウフウチョウボク、セイヨウヤドリギ、セイヨウハッカ又はセイヨウヤマハッカ、セイヨウワサビ、セキショウ(石菖根)、セッコク(サクラセッコク、

コウキセッコク、オオバナセッコク、オキナワセッコク、ホンセッコク、コチョウセッコク、シカクセッコク、キバナセッコク(デンドロビウム、石斛)、セドロロン(ボウシュウボク)、ゼニアオイ、ヒロハセネガ、セネガ、セリ、セロリ、センキュウ(川キュウ)、センシレン(穿心連)、センダン、センニンサボテン、センナ「果実、葉」、センニンソウ(大蓼)、センブリ(当薬)、センボク、ソウカ(草果)、ゾウゲチュウ、ソシンロウバイ、ソバ「種実」、ソメモノイモ、ダイオウ(大黄)、大根、大豆、ダイダイ(橙皮、枳実)、タカサゴルリヒゴタイ(東南藍刺頭)、タカサブロウ(旱蓮草)、タカトウダイ(大戟)、タカワラビ(狗脊)、ダークスイートチェリー「果実」、タチアオイ、タチジャコウソウ(タイム、百里香)、タチドコロ(ヒカイ)、タチヤナギ、タマリンド「種子」、タマネギ、タムシバ(辛夷)、トラノキ「果実、葉、根皮」、トラヨウ(大葉冬青、一葉茶、苦丁茶、苦灯茶)、ダリア(テンジクボタン)、タルウィ、タンシウチワ、タンジン(丹参)、タンポポ(蒲公英)又はシロバナタンポポ又はモウコタンポポ、ダンマル、チェリー「果実」、チガヤ「果実、根、芽」、チクセツニンジン(竹節人參)、チコリ、チャンカピエドラ(キダチコミカンソウ)、チューリップ、チョコノステイ、チョウセンダイオウ(大黄)、チョウセンニレ(蕪夷)、チョウセンヨモギ(艾葉)、チョレイマイタケ(猪苓)、チョロギ、ツキシソウ、ツクシサカナラン、ツクリタケ(マッシュルーム)、ツチアケビ、ツバキ、ツボクサ、ツメクサ(漆姑草)、ツユクサ(鴨跖草)、ツルアズキ(赤小豆)、ツルチアケビ、ツルドクダミ(何首烏)、ツルナ(蕎麥)、ツルニンジン(四葉参)、ツワブキ、デイコ、テウチグルミ、デュベリー「果実」、テングサ、テンチャ(甜茶)、テングダイウヤク(烏藥)、トウガ(冬瓜子)、トウカギカズラ、トウガラシ(番椒)、トウキ(当歸)、トウキンセンカ(マリーゴールド)、トウナベナ(川断)、トウモロコシ又はトウモロコシ毛(南蛮毛)、トウネズミモチ(女貞子)、トウリンドウ又はチョウセンリンドウ(竜胆)、トクサ(木賊)、ドクダミ(十薬)、トコン(吐根)、トシシ又はマメダオシ又はネナシカズラ、トチュウ(杜仲「樹皮、葉、根」、トネリコ(秦皮)、トマト、トラガント、トリアカンソス「種子」、トルコキキョウ、トルメンチラ、ドロノキ、トロロアオイ、トンカマメ、ナイゼリアベリー「果実」、ナガイモ又はヤマノイモ(山藥)、ナギイカダ(ブッチャーブルーム)、ナギナタコウジュ、ナズナ、ナタネ、ナタマメ又はタテハキ(刀豆)、ナツミカン、ナツメ(大棗)、ナニワイバラ(金桜子)、ナベナ(続断)、ナメコ、ナンキンマメ(落花生)、ナンテン(南天実)、ナンバンカラムシ(苧麻)、ニオイスマレ、ニガキ(苦木)、ニガヨモギ(苦艾)、ニクズク、ケイ又はニッケイ又はセイロンニッケイ又はヤブニッケイ(桂皮)又はケイシ(桂枝)、ニョホウチドリ、ニラ(韭子)、ニワトコ(接骨木「果実、花、茎、葉」、ニンニク(大蒜)、ヌルデ(五倍

子)、ネギ、ネムノキ又はネブ又はネビ又はネムリノキ又はジゴクバナ(合歡)、ノアザミ(大薊)、ノイバラ(営実)、ノウゼンカズラ(凌霄花)、ノゲイトウ、ノコギリソウ、ノダケ(前胡)、ノバラ、ノモモ、パイナップル「果実」、ハイビスカス(ブッソウゲ、フウリンブッソウゲ、ローゼル)、ハイリンドウ、ハウチワ、パウ・ドーセ、ハカマウラボシ(骨碎補)、ハクカユマトウ、ハクサンチドリ、ハクセン(白癰皮)、ハクルベリー「果実」、ハコベ(繁縷)、ハシバミ(榛子)、ハシリドコロ(ロート根)、バジル、ハス(蓮、蓮肉、蓮子)、パセリ(オランダゼリ)、ハダカムギ、バタタ、ハチク又はマダケ(竹茹)、パチョリー、ハッカ(薄荷、薄荷葉)、ハトムギ(ヨクイニン)、ハナスゲ(知母)、バナナ、ハナハツカ、ハナビシ(シツリシ、シシツリ)、バニラビーンズ、パイヤ、ハハコグサ(鼠麴草)、パハロボボ、ハブ「全草、茎、葉」、パプリカ、ハマカキラン、ハマゴウ又はミツバハマゴウ(蔓荊子)、ハマスゲ(香附子)、ハマビシ(シツリ子)、ハマナス(マイカイ花)、ハマボウフウ(浜防風)、ハメリス、バーム、バラ(薔薇)、バラータ、バラタゴムノキ、ハラタケ(ハラタケ、シロオオハラタケ、ウスキモリノカサ)、ハラン、パリウルス(セイヨウハマナツメ)、パリエタリア、ハルカンラン、バルサミーナ(ツルレイシ、ニガウリ)、ハルニレ(榆皮、榆白皮、榆葉)、バルバスコ、ハルリンドウ、ハンダイカイ(胖大海)、パンノキ、ヒオウギ(射干)、ヒカゲツルニンジン(党参)、ピーカンナツ、ヒガンバナ(石蒜、蔓珠沙華)、ヒグルマダリア、ヒゴタイ、ヒシ(菱实)、ビスタチオ、ビート、ヒトツバ(石葦)、ヒトツバエニシダ、ヒナギク(デージー)、ヒナタイノコズチ(牛膝)、ヒナチヨドリ、ヒノキ、ヒバ、ヒマシ、ヒマワリ、ピーマン、ヒメウズ(天葵)、ヒメガマ(香蒲)、ヒメマツタケ(カワリハラタケ、ヒロマツタケ)、ヒメムヨウラン、ヒメメンタ「果実」、ビャクシ、ビャッキョウ、ヒユ「果実」、ビロウドアオイ、ヒロハオキナグサ(白頭翁)、ビワ「果実、葉、茎」、ビンロウ(大服皮、檳榔子)、プーアル茶(普洱茶)、フウトウカズラ(南藤)、フキ、フキタンポポ(款冬花、款冬葉)、フジバカマ(蘭草)、フジマメ(扁豆)、フジモドキ(チョウジザクラ、芫花)、ブドウ「果実、果皮、種子、葉」、ブナ、フユムシナツクサタケ(冬虫夏草)、ブラジルカンゾウ、ブラジルニンジン、ブラックカーラント「果実」、ブラックベリー、ブルーニエン、ブラム「果実」、フルセラリア、ブルーベリー(セイヨウヒメスノキ)、プルー、フローラルブランカ、ブロンズサイリウム、ブンドウ(綠豆)、ヘーゼルナッツ、ヘチマ、ヘツカラン、ベニバナ(紅花)、ヘネケン、ベラドンナ、ベリー「果実」、ペルセア、ペルビアンバーグ、ペレスキア・グランディフォリア、ベンケイソウ又はイキクサ(景天)、ボイセンベリー「果実」、ホウキギ又はニワクサ又はネンドウ又はハハキギ・コキア(地膚子)、ホウサイラン、ホウセンカ(鳳仙、急性子、

透骨草)、ポウテリア・サボタ、ポウテリア・ルクマ、
 ホウノキ、ボウフウ(防風)、ホウレンソウ、ホオズキ
 (登呂根)、ホオノキ(和厚朴、朴)、ボケ(木瓜)、ホソバ
 アブラギク(苦ヨク)、ホソバオグルマ、ホソバナオケラ
 (蒼朮)、ホソバノキリンソウ(景天三七)、ホソババレン
 ギク、ボダイジュ(菩提樹)、ボタン(牡丹「花、葉、
 茎、樹皮」)、ボタンビ(牡丹皮)、ホップ、ホホバ、ボ
 リジ(ルリチシャ)、ボルドー、ホワートルベリー「果
 実」、ホンオニク(肉じゅ蓉、大芸)、ホンセッコク(鉄
 皮石斛、雀山石斛)、マイズルテンナンショウ(天南
 星)、マイタケ(舞茸)、マオウ(麻黄)、マカ、マカデミ
 アナッツ、マーガレット(モクシュンギク)、マクリ(海
 人草)、マグワ(桑白皮「樹皮、葉」)、マグノリア・ス
 プレンゲリ、マサランズーバ、マサランズーバ・ド・セ
 アラー、マシェイラ・デ・ボイ、マシュア(タマノウゼ
 ンハレン、キュウコンキンレンカ)、マタタビ(木天
 蓼)、マツカサ、松「葉、樹皮、根」、マツ・オーリ
 ョ、マツホド(茯苓)、マティコ(コルドンシージョ)、マ
 ヨラム(ハナハッカ)、マルバノジャジン(苦参)、マルベ
 リー「果実」、マルメロ、マレイン(ヒロウドモウズイ
 カ)、マンゴー、マンゴスチン、マンサーニャ(アンデス
 カミツレ)、マンシュウグルミ、マンダリン「果実」、
 マンネンタケ(靈芝)、キジツ(枳実「果実」)、ミシマサ
 イコ(柴胡)、ミズオオバコ又はミズアサガオ(竜舌草)、
 ミゾカクシ(半辺蓮)、ミソハギ(千屈菜)、ミチヤナギ又
 はニワヤナギ(篇蓄)、ミツガシワ、ミツバ、ミドリサボ
 テ、ミドリハッカ、ミモザ、ミョウガ、ミラクフルー
 ツ「果実」、ミルラ、ミロバラン、ムギワラギク、ムク
 ゲ(木槿)、ムクノキ、ムクロジ(延命皮)、ムニャ、ムラ
 サキ(紫根)、ムラサキシキブ又はオオムラサキシキブ
 (紫珠)、ムラサキトウモロコシ、ムラサキナツフジ(昆
 明鶏血藤)、メガカンサ・オープンティカ、メハジキ(益母
 草)、メボウギ、メラロイカ、メリッサ、メリロート、
 メロン「果実」、モウコヨモギ、モウソウチク、モクキ
 リン、モジェ(コショウボク)、モチノキ、モッコウ(木
 香)、モミジバダイオウ、モモ(桃「葉、種子、花、果
 実」)、モヤシ、モレロチェリー「果実」、モロヘイヤ
 (黄麻)、ヤカワムラサキイモ、ヤクチ(益智)、ヤグルマ
 ソウ(ヤグルマギク)、ヤグルマハッカ、ヤーコン、ヤシ
 ャブシ(矢車)又はヒメヤシャブシ又はオオバヤシャブシ
 「果実、果皮、果穂」、ヤチヤナギ、ヤツデ(八角金
 盤)、ヤドリギ(柳寄生)、ヤナギ(カワヤナギ、タチヤナ
 ギ、シダレヤナギ、アカメヤナギ、ネコヤナギ、イヌコ
 リヤナギ、キヌヤナギ、コリヤナギ、ウンリュウヤナ
 ギ、ミヤマヤナギ、ヤシ、ヤマヤナギ、オオバヤナギ、
 タイリクキヌヤナギ、キツネヤナギ、ドロノキ)、ヤナ
 ギタデ「葉、茎」、ヤブガラシ、ヤブコウジ(紫金牛)、
 ヤブタバコ(鶴虱、天名精)、ヤマゴボウ(商陸)、ヤマハ
 ンノキ(山榛)、ヤマモモ(楊梅皮)、ヤマヨモギ、ユー
 カリ、ユキノシタ(虎耳草)、ユッカ又はフレビフォリ

ア、ユズ「果実」、ユリ、ヨロイグサ、ヨモギ(艾葉)、
 ライガン(雷丸)、ライム「果実」、ライムギ、ラカンカ
 「果実」、ラズベリー「葉、果実」、ラタニア(クラメ
 リア)、ラッキョウ又はエシヤロット(薤白)、ラベンダ
 ー、リュウガン(竜眼肉)、リュウゼツラン(アオノリュ
 ウゼツラン、フクリンリュウゼツラン)、リョクチャ(緑
 茶)、リンゴ「果実、種子、葉、根」、リンドウ、ルバ
 ス又はスアビシムス(甜涼)、ルリタマアザミ(ウラジロ
 ヒゴタイ、新疆藍刺頭)、レイシ(荔枝、荔枝核)、レタ
 ス(チシャ)、レッドカーラント「果実」、レッドピタ
 ヤ、レモン「果実」、レモンガラス、レンギョウ又はシ
 ナレンギョウ(連翹)、レンゲソウ、ロウバイ(蠟梅)、ロ
 ウヤシ、ロコン(ヨシ、蘆根)、ローガンベリー「果
 実」、ローズマリー(マンネンロウ)、ローズヒップ(ノ
 バラ)、ワサビ、ワタフジウツギ(密蒙花)、ワレモコウ
 (地榆)等が挙げられる。

【0031】海藻類としては、海藻〔緑藻類：クロレラ
 ・ブルガリス、クロレラ・ヒレノイドサ、クロレラ・エ
 リアソイデア、アオノリ(ウスバアオノリ、スジアオ
 ノリ、ヒラアオノリ、ボウアオノリ、ホソエダアオノ
 リ)、アナアオサ(アオサ)]、海藻〔褐藻類：コンブ
 (マコンブ、リシリコンブ、ホソメコンブ、ミツイシコ
 ンブ)、ワカメ、ヒロメ、アオワカメ、ジャイアントケ
 ルプ(マクロシステイス・ピリフェラ、マクロシステイ
 ス・インテグリフォリア、ネオシステイス・ルエトケア
 ナ)、ヒジキ、ヒバマタ、ウミウチワ、ウスバウミウチ
 ワ、キレバノウミウチワ、アカバウミウチワ、コナウミ
 ウチワ、オキナウチワ、ウスユキウチワ、エツキウミウ
 チワ]、海藻〔紅藻類：ヒジリメン、マクサ(テング
 サ)、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、カタオバクサ、
 ヤタバグサ、ユイキリ、シマテングサ、トサカノリ、ト
 ゲキリンサイ、アマクサキリンサイ、キリンサイ、ビヤ
 クシンキリンサイ、ツノマタ、オオバツノマタ、トチャ
 カ(ヤハズツノマタ)、エゾツノマタ、トゲツノマタ、ヒ
 ラコトジ、コトジツノマタ、イボツノマタ、マルバツノ
 マタ、ヒラコトジ、スギノリ、シキンノリ、カイノリ、
 ヤレウスバノリ、カギウスバノリ、スジウスバノリ、ハ
 イウスバノリ、アカモジノリ]等が代表的なものとし
 て挙げられる。

【0032】又、その他の藻類、例えば、緑藻類(クラ
 ミドモナス属：クラミドモナス、アカユキモ、ドゥナリ
 エラ属：ドゥナリエラ、クロロコッカス属：クロロコッ
 カス、クワノミモ属：クワノミモ、ボルボックス属：オ
 オヒゲマワリ、ボルボックス、パルメラ属、ヨツメモ
 属、アオミドロ属：ヒザオリ、アオミドロ、ツルギミド
 ロ属、ヒビミドロ属：ヒビミドロ、アオサ属：アナアオ
 サ、アミアオサ、ナガアオサ、カワノリ属：カワノリ、
 フリッチエラ属、シオグサ属：オオシオグサ、アサミド
 リシオグサ、カワシオグサ、マリモ、バロニア属：タマ
 ゴバロニア、タマバロニア、マガタマモ属：マガタマ

モ、イワツタ属：フサイワツタ、スリコギツタ、ヘライワツタ、クロキツタ、ハネモ属、ミル属：ミル、クロミル、サキブチミル、ナガミル、ヒラミル、カサノリ属：カサノリ、ジュズモ属：フトジュズモ、タマジュズモ、ミゾジュズモ、ミカヅキモ属、コレカエテ属、ツヅミモ属、キッコウグサ属：キッコウグサ、ヒトエグサ属：ヒトエグサ、ヒロハノヒトエグサ、ウスヒトエグサ、モツキヒトエ、サヤミドロ属、クンショウモ属、スミレモ属：スミレモ、ホシミドロ属、フシナシミドロ属等）。

【0033】藍藻類（スイゼンジノリ属：スイゼンジノリ、アオコ属、ネンジュモ属：カワタケ、イシクラゲ、ハッサイ、ユレモ属、ラセンモ（スピリリナ）属：スピリリナ、トリコデスミウム（アイアカシオ）属等）。

【0034】褐藻類（ピラエラ属：ピラエラ、シオミドロ属：ナガミシオミドロ、イソブドウ属：イソブドウ、イソガワラ属：イソガワラ、クロガシラ属：グンセンクロガシラ、カシラザキ属：カシラザキ、ムチモ属：ムチモ、ヒラムチモ、ケベリグサ、アミジグサ属：アミジグサ、サキヒロアミジ、サナダグサ属：サナダグサ、フクリンアミジ、コモングサ属：コモングサ、ヤハズグサ属：エゾヤハズ、ヤハズグサ、ウラボシヤハズ、ジガミグサ属：ジガミグサ、ウミウチワ属：ウミウチワ、コナウミウチワ、アカバウミウチワ、ナミマクラ属：ヒルナミマクラ、ソメワケグサ属：ソメワケグサ、ナバリモ属：ナバリモ、チャソウメン属：モツキチャソウメン、マツモ属：マツモ、ナガマツモ属：ナガマツモ、オキナワモズク属：オキナワモズク、ニセフトモズク属：ニセフトモズク、フトモズク属：フトモズク、イシモズク属：イシモズク、クロモ属：クロモ、ニセモズク属：ニセモズク、モズク属：モズク、イシゲ属：イシゲ、イロロ、イチメガサ属：イチメガサ、ケヤリ属：ケヤリ、ウミボッス属：ウミボッス、ウルシグサ属：ウルシグサ、ケウルシグサ、タバコグサ、コンブモドキ属：コンブモドキ、ハバモドキ属：ハバモドキ、ハバノリ属：ハバノリ、セイヨウハバノリ属：セイヨウハバノリ、コモンブクロ属：コモンブクロ、エゾブクロ属：エゾブクロ、フクロノリ属：フクロノリ、ワタモ、チシマフクロノリ属：チシマフクロノリ、カゴメノリ属：カゴメノリ、ムラリドリ属：ムラチドリ、サメズグサ属：サメズグサ、イワヒゲ属：イワヒゲ、ヨコジマノリ属：ヨコジマノリ、カヤモノリ属：カヤモノリ、ウイキョウモ属：ウイキョウモ、ツルモ属：ツルモ、アナメ属：アナメ、スジメ属：スジメ、ミスジコンブ属：ミスジコンブ、アツバミスジコンブ、コンブ属：ガツガラコンブ、カキジマコンブ、オニココンブ、ゴヘイコンブ、ナガコンブ、エンドウコンブ、オオチヂミコンブ、トロロコンブ属：トロロコンブ、アントクメ属：アントクメ、カジメ属：カジメ、ツルアラメ、クロメ、キクイシコンブ属：キクイシコンブ、ネジレコンブ属：ネジレコンブ、クロシオメ属：クロシオメ、ネコアシコンブ属：ネコアシコンブ、

アラメ属：アラメ、アイヌワカメ属：アイヌワカメ、チガイソ、オニワカメエゾイシゲ属：エゾイシゲ、ヤバネモ属：ヤバネモ、ラッパモ属：ラッパモ、ジョロモ属：ウガノモ、ジョロモ、ヒエモ、ホンダワラ属：タマナシモ、イソモ、ナガシマモ、アカモ、シダモ、ホンダワラ、ネジモ、ナラサモ、マメタワラ、タツクリ、ヤツマタモ、ウミトラノオ、オオバモ、フシズシモ、ハハキモ、トゲモ、ヨレモ、ノコギリモ、オオバノコギリモ、スギモ属：スギモ、ウキモ属：オオウキモ、ブルウキモ属：ブルウキモ、カヤモノリ属：カヤモノリ等）。

【0035】紅藻類（ウシケノリ属：ウシケノリ、フノリノウシケ、アマノリ属：アサクサノリ、スサビノリ、ウップルイノリ、オニアマノリ、タサ、フィリタサ、ベニタサ、ロドコルトン属：ミルノベニ、アケボノモズク属：アケボノモズク、コナハダ属：ハイコナハダ、ヨゴレコナハダ、アオコナハダ、ウミゾウメン属：ウミゾウメン、ツクモノリ、カモガシラノリ、ベニモズク属：ベニモズク、ホソベニモズク、カサマツ属：カサマツ、フサノリ属：フサノリ、ニセフサノリ属：ニセフサノリ、ソデガラミ属：ソデガラミ、ガラガラ属：ガラガラ、ヒラガラガラ、ヒロハタマイタダキ属：ヒロハタマイタダキ、タマイタダキ属：タマイタダキ、カギケノリ属：カギノリ、カギケノリ、テングサ属：ヒメテングサ、ハイテングサ、オオブサ、ナンブグサ、コヒラ、ヨヒラ、キヌクサ、ヒビロウド属：ヒビロウド、ヒメヒビロウド、イソムメモドキ属：イソムメモドキ、ミチガエソウ属：ミチガエソウ、リュウモンソウ属：リュウモンソウ、ヘラリュウモン、ニセカレキグサ属：ニセカレキグサ、オキツバラ属：オオバオキツバラ、アカバ属：アカバ、マルバアカバ、ナミノハナ属：ホソバナミノハナ、ナミノハナ、サンゴモドキ属：ガラガラモドキ、シオグサゴロモ属：シオグサゴロモ、イワノカワ属：エツキイワノカワ、カイノカワ属：カイノカワ、カニノテ属：カニノテ、サンゴモ属：サンゴモ、ムカデノリ属：ムカデノリ、スジムカデ、カタノリ、ヒラムカデ、キョウノヒモ、サクラノリ、ニクムカデ、タンバノリ、ツルツル、フダラク、マルバフダラク、イソノハナ属：ヌラクサ、クロヌラクサ、オオムカデノリ、ヒラキントキ属：ヒラキントキ、マタボウ属：マタボウ、キントキ属：チャボキントキ、キントキ、マツノリ、コメノリ、トサカマツ、ヒトツマツ、フシキントキ、ツノムカデ、ナガキントキ、スジムカデ、カクレイト属：オオバキントキ、イトフノリ属：イトフノリ、ナガオバネ属：ナガオバネ、フノリ属：ハナフノリ、フクロフノリ、マフノリ、カレキグサ属：カレキグサ、トサカモドキ属：ホソバノトサカモドキ、ヒロハノトサカモドキ、ヤツデガタトサカモドキ、クロトサカモドキ、ネザシノトサカモドキ、ユウソラ、エツキノトサカモドキ、ナンカイトサカモドキ、ヒメトサカモドキ、キヌハダ属：キヌハダ、エゾトサカ

属：エゾトサカ、ツカサノリ属：エナシカリメニア、オオツカサノリ、ハナガタカリメニア、ホウノオ属：ホウノオ、ヒカゲノイト属：ヒカゲノイト、ウスギヌ、ニクホウノオ属：ニクホウノオ、ベニスナゴ属：ベニスナゴ、ススカケベニ属：ススカケベニ、オカムラグサ属：ヤマダグサ、ミリン属：ミリン、ホソバミリン、トサカノリ属：キクトサカ、エゾナメシ属：エゾナメシ、イソモッカ属：イソモッカ、ユカリ属：ユカリ、ホソユカリ、イバラノリ属：イバラノリ、サイダイバラ、タチイバラ、カギイバラノリ、キジノオ属：キジノオ、イソダンツウ属：イソダンツウ、アツバノリ属：アツバノリ、オゴノリ属：オゴノリ、ツルシラモ、シラモ、オオオゴノリ、ミゾオコノリ、カバノリ、ベニオゴノリ、フクレシノリ、ムラサキカバノリ、シンカイカバノリ、トゲカバノリ、カタオゴノリ、リュウキュウオゴノリ、セイヨウオゴノリ、イツツギヌ、ユミガタオゴノリ、クビレオゴノリ、モサオゴノリ、キヌカバノリ、テングサモドキ属：ハチジョウテングサモドキ、フシクレノリ属：フシクレノリ、ナミイワタケ属：ナミイワタケ、カイメンソウ属：カイメンソウ、オキツノリ属：オキツノリ、サイミ属：イタニグサ、サイミ、ハリガネ、ハスジグサ属：ハスジグサ、スギノリ属：イカノアシ、ホソイボノリ、ノボノリ、クロハギンナンソウ属：クロハギンナンソウ、アカバギンナンソウ属：アカバギンナンソウ、ヒシブクロ属：ヒシブクロ、マダラグサ属：トゲマダラ、エツキマダラ、タオヤギソウ属：タオヤギソウ、ハナサクラ、フクロツナギ属：フクロツナギ、スジコノリ、ハナノエダ属：ハナノエダ、ヒラタオヤギ属：ヒラタオヤギ、ダルス属：ダルス、マサゴシバリ、アナダルス、ウエバグサ属：ウエバグサ、ベニフクロノリ属：ベニフクロノリ、フシツナギ属：フシツナギ、ヒメフシツナギ、ヒロハフシツナギ、ワツナギソウ属：ヒラワツナギソウ、ウスバワツナギソウ、イギス属：イギス、ケイギス、ハリイギス、ハネイギス、アミクサ、エゴノリ属：エゴノリ、フトイギス、サエダ属：サエダ、チリモミジ属：チリモミジ、コノハノリ科：ハブタエノリ、コノハノリ、スズシロノリ、ウスベニ属：ウスベニ、ハスジギヌ属：ハスジギヌ、ナガコノハノリ属：ナガコノハノリ、スジギヌ属：スジギヌ、アツバスジギヌ、ハイウスバノリ属：カギウスバノリ、ヤレウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、ウスバノリモドキ属：ウスバノリモドキ、アヤニシキ属：アヤニシキ、アヤギヌ属：アヤギヌ、ダジア属：エナシダジア、シマダジア属：イソハギ、シマダジア、ダジモドキ属：ダジモドキ、イトグサ属：モロイトグサ、フトイグサ、マクリ属：マクリ、ヤナギノリ属：ハナヤナギ、ユナ、ヤナギノリ、モツレユナ、ベニヤナギコリ、モサヤナギ、ササバヤナギノリ、ソゾ属：クロソゾ、コブソゾ、ハネソゾ、ソゾノハナ、ハネグサ属：ハネグサ、ケハネグサ、コザネモ属：コザネモ、イソムラサキ、ホソコザネモ、ヒメゴケ

属：ヒメゴケ、クロヒメゴケ、ヒオドシグ属：キクヒオドシ、ヒオドシグサ、ウスバヒオドシ、アイソメグサ属：アイソメグサ、スジナシグサ属：スジナシグサ、イソバショウ属：イソバショウ、フジマツモ属：フジマツモ、ノコギリヒバ属：ハケサキノコギリヒバ、カワモズク属：カワモズク、アオカワモズク、ヒメカワモズク、イデユコゴメ属：イデユコゴメ、オキチモズク属：オキチモズク、イトグサ属、チノリモ属：チノリモ、チスジノリ属：チスジノリ等)。

【0036】車軸藻類(シャジクモ属、シラタマモ属、ホシツリモ属：ホシツリモ、リクノタムヌス属、フラスコモ属：ヒメフラスコモ、チャボフラスコモ、トリペラ属等)、黄色藻類(ヒカリモ属：ヒカリモ等)等。

【0037】又、動物系原料由来の素材としては、鶏冠抽出物、豚又は牛の胃、十二指腸、腸、脾臓の抽出物若しくはその分解物、牛又は豚の脳組織の抽出物、水溶性コラーゲン、アシル化コラーゲン等のコラーゲン誘導体、コラーゲン加水分解物、エラスチン、エラスチン加水分解物、水溶性エラスチン誘導体、ケラチン及びその分解物又はそれらの誘導体、シルク蛋白及びその分解物又はそれらの誘導体、豚又は牛血球蛋白分解物(グロビンペプチド)、牛又は豚ヘモグロビン分解物(ヘミン、ヘマチン、ヘム、プロトヘム、ヘム鉄等)、牛乳、カゼイン及びその分解物又はそれらの誘導体、脱脂粉乳及びその分解物又はそれらの誘導体、ラクトフェリン又はその分解物、鶏卵成分、魚肉分解物、核酸関連物質(リボ核酸、デオキシリボ核酸)等。

【0038】又、植物又は動物系原料由来の素材としては、遺伝子組み替え体や細胞融合体由来の任意の部位、細胞、組織、器官、代謝物等も使用することができる。更に、任意の部位、細胞、組織、器官等を細胞培養することで得られる、例えば未分化細胞群や分化途中の細胞群等も使用することができる。

【0039】(14)海洋成分

深層水等の海水類、例えば、海水塩、海水乾燥物、死海又は大西洋又は太平洋の海より得た無機塩(塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウム等)、海泥又は泥(ファンゴ)類、例えば、イタリアファンゴ、ドイツファンゴ、アイフェルファンゴ、フライブルグファンゴ等の各地の海泥又は泥(含有成分：二酸化珪素、二酸化チタン、酸化アルミニウム、酸化鉄、酸化マンガン、酸化ナトリウム、酸化カリウム、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化ストロンチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、カルシウム、クロム、鉄、銅、ニッケル、亜鉛、鉛、マンガン、ヒ素、水)、聖徳石等。

【0040】(15)微生物培養代謝物

酵母代謝物、酵母菌抽出エキス、細菌代謝物、細菌抽出エキス、カビ又は放線菌代謝物、カビ又は放線菌抽出エキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキス、米発酵エキス、米糠(赤糠、白糠)発酵エキス、ユーグレナ抽出物又は

その分解物又はそれら水溶性誘導体、トレハロース又はその誘導体等。

【0041】(16) α -ヒドロキシ酸類

グリコール酸、クエン酸、リンゴ酸、酒石酸、乳酸等。

【0042】(17) 無機顔料

無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、タルク、カオリン、ベントナイト、マイカ、雲母チタン、オキシ塩化ビスマス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化亜鉛、酸化チタン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、黄酸化鉄、ベンガラ、黒酸化鉄、グンジョウ、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンブラック、カラミン等。

【0043】(18) 紫外線吸収／遮断剤

ベンゾフェノン誘導体 (2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン-スルホン酸ナトリウム、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、テトラヒドロキシベンゾフェノン等)、p-アミノ安息香酸誘導体 (パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラジメチルアミノ安息香酸アミル、パラジメチルアミノ安息香酸オクチル等)、メトキシ桂皮酸誘導体 (パラメトキシ桂皮酸エチル、パラメトキシ桂皮酸イソプロピル、パラメトキシ桂皮酸オクチル、パラメトキシ桂皮酸2-エトキシエチル、パラメトキシ桂皮酸ナトリウム、パラメトキシ桂皮酸カリウム、ジパラメトキシ桂皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル等)、サリチル酸誘導体 (サリチル酸オクチル、サリチルフェニル、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸ジプロピレングリコール、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸ミリスチル、サリチル酸メチル等)、アントラニル酸誘導体 (アントラニル酸メチル等)、ウロカニン酸誘導体 (ウロカニン酸、ウロカニン酸エチル等)、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、ウンベリフェロン、エスクリン、桂皮酸ベンジル、シノキサート、オキシベンゾン、ジオキシベンゾン、オクタベンゾン、スリソベンゾン、ベンゾレソルシノール、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、ネオヘリオパン、エスカロール、酸化亜鉛、タルク、カオリン等。

【0044】(19) 美白剤

p-アミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導

体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンC又はその誘導体 (ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシド等)、ビタミンE又はその誘導体、コウジ酸又はその誘導体、オキシベンゾン、ベンゾフェノン、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、胎盤エキス、エラグ酸、ルシノール等。

【0045】(20) チロシナーゼ活性阻害剤

ビタミンC又はその誘導体 (ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシド等)、ハイドロキノン又はその誘導体 (ハイドロキノンベンジルエーテル等)、コウジ酸又はその誘導体、ビタミンE又はその誘導体、N-アセチルチロシン又はその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、胎盤エキス、エラグ酸、アルブチン、ルシノール、シルク抽出物、植物エキス (カミツレ、クワ、クチナシ、トウキ、ワレモコウ、クララ、ヨモギ、スイカズラ、キハダ、ドクダミ、マツホド、ハトムギ、オドリコソウ、ホップ、サンザシ、ユーカリ、セイヨウノコギリソウ、アルテア、ケイヒ、マンケイシ、ハマメリス、ヤマグワ、延命草、桔梗、トシシ、続随子、射干、麻黄、センキュウ、ドクカツ、サイコ、ボウフウ、ハマボウフウ、オウゴン、牡丹皮、シャクヤク、ゲンノショウコ、葛根、甘草、五倍子、アロエ、ショウマ、紅花、緑茶、紅茶、阿仙薬) 等。

【0046】(21) メラニン色素還元／分解物質

フェニル水銀ヘキサクロロフェン、酸化第二水銀、塩化第一水銀、過酸化水素水、過酸化亜鉛、ハイドロキノン又はその誘導体 (ハイドロキノンベンジルエーテル) 等。

【0047】(22) ターンオーバーの促進作用／細胞賦活物質

ハイドロキノン、霊芝エキス、ビタミンA、ビタミンE、アラントイン、脾臓エキス、胸腺エキス、酵母エキス、植物エキス (アロエ、オウゴン、スギナ、ゲンチアナ、ゴボウ、シコン、ニンジン、ハマメリス、ホップ、ヨクイニン、オドリコソウ、センブリ、トウキ、トウキンセンカ、アマチャ、オトギリソウ、キュウリ、タチジャコウソウ、ローズマリー、バセリ) 等。

【0048】(23) 収斂剤

コハク酸、アラントイン、塩化亜鉛、硫酸亜鉛、酸化亜鉛、カラミン、p-フェノールスルホン酸亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム、レゾルシン、塩化第二鉄、タンニン酸 (カテキン化合物を含む) 等。

【0049】(24) 活性酸素消去剤

SOD、カタラーゼ、グルタチオンパーオキシダーゼ等。

【0050】(25) 抗酸化剤

ビタミンC又はその塩、ステアリン酸エステル、ビタミンE又はその誘導体、ノルジヒドログアセレン酸、ブ

チルヒドロキシトルエン (BHT)、ブチルヒドロキシアニソール (BHA)、ヒドロキシチロソール、パラヒドロキシアニソール、没食子酸プロピル、セサモール、セサモリン、ゴシボール、プロボリス等。

【0051】(26)過酸化脂質生成抑制剤

β -カロチン、植物エキス (ゴマ培養細胞、アマチャ、オトギリソウ、ハマメリス、チョウジ、メリッサ、エンメイソウ、シラカバ、サルビア、ローズマリー、南天実、エイジツ、イチョウ、緑茶) 等。

【0052】(27)抗炎症剤

イクタモール、インドメタシン、カオリン、サリチル酸、サリチル酸ナトリウム、サリチル酸メチル、アセチルサリチル酸、塩酸ジフェンヒドラミン、*d*-カンフル、*dl*-カンフル、ヒドロコルチゾン、グアイアズレン、カマズレン、マレイン酸クロロフェニラミン、グリチルリチン酸又はその塩並びにそれらの誘導体、グリチルレチン酸又はその塩並びにそれらの誘導体、甘草エキス、シコンエキス、エイジツエキス、プロボリス等。

【0053】(28)抗菌・殺菌・消毒薬

アクリノール、イオウ、グルコン酸カルシウム、グルコン酸クロロヘキシジン、スルファミン、マーキュロクロム、ラクトフェリン又はその加水分解物、塩化アルギルジアミノエチルグリシン液、トリクロサン、次亜塩素酸ナトリウム、クロラミンT、サラシ粉、ヨウ素化合物、ヨードホルム、ソルビン酸又はその塩、プロピオン酸又はその塩、サルチル酸、デヒドロ酢酸、パラヒドロキシ安息香酸エステル類、ウンデシレン酸、チアミンラウリル硫酸塩、チアミンラウリル硝酸塩、フェノール、クレゾール、*p*-クロロフェノール、*p*-クロロ-*m*-キシレノール、*p*-クロロ-*m*-クレゾール、チモール、フェネチルアルコール、*o*-フェニルフェノール、イルガサンCH3565、ハロカルバン、ヘキサクロロフェン、クロロヘキシジン、エタノール、メタノール、イソプロピルアルコール、ベンジルアルコール、エチレングリコール、プロピレングリコール、2-フェノキシエタノール、1,2-ペンタンジオール、ジメチルピリジオン、クロロブタノール、イソプロピルメチルフェノール、非イオン界面活性剤 (ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル等)、両性界面活性剤、アニオン界面活性剤 (ラウリル硫酸ナトリウム、ラウロイルサルコシンカリウム等)、カチオン界面活性剤 (臭化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化メチルロザニリン)、ホルムアルデヒド、ヘキサミン、ブリアントグリーン、マラカイトグリーン、クリスタルバイオレット、ジャーマル、感光素101号、感光素201号、感光素401号、N-長鎖アシル塩基性アミノ酸誘導体及びその酸附加塩、酸化亜鉛、ヒノキチオール、クジン、プロボリス等。

【0054】(29)保湿剤

グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ヒアルロン酸又はその塩、ポリエチレングリコール、コンドロイチン硫酸又はその塩、水溶性キチン又はその誘導体或いはキトサン誘導体、ピロリドンカルボン酸又はその塩、乳酸ナトリウム、ミニササニシキエキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキス、ヘチマ水、シラカバ (白樺) 又は赤松の樹液

【0055】(30)エラストマーゼ活性阻害剤

フロオロリン酸ジイソプロピル、植物エキス (オウゴン、オトギリソウ、クララ、桑の葉、ケイヒ、ゲンノショウコ、コンフリー、サルビア、セイヨウニワトコ、ボダイジュ、ボタンビ)、海藻エキス等。

【0056】(31)抗アンドロゲン剤

卵胞ホルモン (エストロン、エストラジオール、エチニルエストラジオール等)、イソフラボン、オキシンドロン等。

【0057】(32)末梢血管血流促進剤

ビタミンE又はその誘導体、センブリエキス、ニンニクエキス、人参エキス、アロエエキス、ゲンチアナエキス、トウキエキス、セファランチン、塩化カルプロニウム、ミノキシジル等。

【0058】(33)刺激剤

トウガラシチンキ、ノニル酸バニルアミド、カンタリスチンキ、ショウキョウチンキ、ハッカ油、1-メントール、カンフル、ニコチン酸ベンジル等。

【0059】(34)代謝活性剤

感光素301号、ヒノキチオール、パントテン酸又はその誘導体、アラントイン、ビオチン、ペンタデカン酸グリセリド等。

【0060】(35)抗脂漏剤

ビリドキシン又はその誘導体、イオウ、ビタミンB6等。

【0061】(36)角質溶解剤

レゾルシン、サリチル酸、乳酸、尿素、グアニジン、エタノールアミン等。

【0062】(37)酸化還元剤

過酸化水素水、過硫酸ナトリウム、過硫酸アンモニウム、過ホウ酸ナトリウム、過酸化尿素、過炭酸ナトリウム、過酸化トリポリリン酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム、過酸化ピロリン酸ナトリウム、過酸化オルソリン酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム過酸化水素付加体、硫酸ナトリウム過酸化水素付加体、塩化ナトリウム過酸化水素付加体、 β -チロシナーゼ酵素液、マッシュルーム抽出液、硫酸ストロンチウム、硫化ナトリウム、硫化バリウム、硫化カルシウム等の無機系還元剤、チオグリコール酸又はその塩類 (チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸ナトリウム、チオグリコール酸リチウム、チオグリコール酸マグネシウム、チオグリコール酸ストロンチウム) 等。

【0063】(38)染料剤

5-アミノオルトクレゾール、2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニトロフェノール、1-アミノ-4-メチルアミノアントラキノン、3,3'-イミノジフェノール、塩酸2,4-ジアミノフェノキシエタノール、塩酸2,4-ジアミノフェノール、塩酸トルエン-2,5-ジアミン、塩酸ニトロパラフェニレンジアミン、塩酸パラフェニレンジアミン、塩酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、塩酸メタフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、酢酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、1,4-ジアミノアントラキノン、2,6-ジアミノピリジン、1,5-ジヒドロキシナフタレン、トルエン-2,5-ジアミン、トルエン-3,4-ジアミン、ニトロパラフェニレンジアミン、パラアミノフェノール、パラニトロオルトフェニレンジアミン、パラフェニレンジアミン、パラメチルアミノフェノール、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、N,N'-ビス(4-アミノフェニル)-2,5-ジアミノ-1,4-キノンジイミン、5-(2-ヒドロキシエチルアミノ)-2-メチルフェノール、N-フェニルパラフェニレンジアミン、メタアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、硫酸5-アミノオルトクレゾール、硫酸2-アミノ-5-ニトロフェノール、硫酸オルトアミノフェノール、硫酸オルトクロルパラフェニレンジアミン、硫酸4,4'-ジアミノジフェニルアミン、硫酸2,4-ジアミノフェノール、硫酸トルエン-2,5-ジアミン、硫酸ニトロパラフェニレンジアミン、硫酸パラアミノフェノール、硫酸パラニトロオルトフェニレンジアミン、硫酸パラニトロメタフェニレンジアミン、硫酸パラフェニレンジアミン、硫酸パラメチルアミノフェノール、硫酸メタアミノフェノール、硫酸メタフェニレンジアミン、カテコール、ジフェニルアミン、 α -ナフトール、ヒドロキノン、ピロガロール、フロログルシン、没食子酸、レゾルシン、タンニン酸、2-ヒドロキシ-5-ニトロ-2',4'-ジアミノアゾベンゼン-5'-スルホン酸ナトリウム、ヘマテイン等。

【0064】(39)香料

ジャコウ、シベット、カストリウム、アンバーgris等の天然動物性香料、アニス精油、アンゲリカ精油、イランイラン精油、イリス精油、ウイキョウ精油、オレンジ精油、カナンガ精油、カラウェー精油、カルダモン精油、グアヤクウッド精油、クミン精油、黒文字精油、ケイ皮精油、シンナモン精油、ゲラニウム精油、コパイバルサム精油、コリアンデル精油、シソ精油、シダーウッド精油、シトロネラ精油、ジャスミン精油、ジンジャーグラス精油、杉精油、スベアミント精油、西洋ハッカ精油、大茴香精油、チュベローズ精油、丁字精油、橙花精油、冬緑精油、トルーバルサム精油、パチュリー精油、バラ精油、パルマローザ精油、桧精油、ヒバ精油、白檀精油、アチグレン精油、ベイ精油、ベチバ精油、ベルガモット精油、ベルーバルサム精油、ボアドローズ精油、芳樟精油、マンダリン精油、ユーカリ精油、ライム精油、ラベンダー精油、リナロエ精油、レモングラス精

油、レモン精油、ローズマリー精油、和種ハッカ精油等の植物性香料、その他合成香料等。

【0065】(40)色素・着色剤

赤キャベツ色素、赤米色素、アカネ色素、アナトー色素、イカスミ色素、ウコン色素、エンジュ色素、オキアミ色素、柿色素、カラメル、金、銀、クチナシ色素、コーン色素、タマネギ色素、タマリンド色素、スピルリナ色素、ソバ全草色素、チェリー色素、海苔色素、ハイビスカス色素、ブドウ果汁色素、マリーゴールド色素、紫イモ色素、紫ヤマイモ色素、ラック色素、ルチン等。

【0066】(41)その他

ホルモン類、金属イオン封鎖剤、pH調整剤、キレート剤、防腐・防バイ剤、清涼剤、安定化剤、乳化剤、動・植物性蛋白質及びその分解物、動・植物性多糖類及びその分解物、動・植物性糖蛋白質及びその分解物、血流促進剤、抗炎症剤・消炎剤・抗アレルギー剤、細胞賦活剤、創傷治療剤、増泡剤、増粘剤、酵素、精製水(電子水、小クラスター化等)、消臭・脱臭剤等が上げられ、これらと併用することによって、本発明効果又は他の美容的効果の相加的又は相乗的向上が期待できる。

【0067】

【実施例】以下に、本発明の製造例、比較例、試験例及び処方例を示し、更に具体的に説明するが、本発明がこれらに制約されるものではない。

【0068】(製造例1)牛乳タンパク質水溶液30Lに、乳酸菌*Lactobacillus bulgaricus*を1%接種し、40℃にて3日間培養し、培養終了後、培養液を80℃で殺菌処理を行った。そして更に活性炭処理後メンブランフィルターにて濾過を行い、その濾液を発酵乳エキスとした。この発酵乳エキス10.00重量%に、セラミド0.01重量%、界面活性剤0.50重量%、エタノール5.00重量%、1,3-ブチレングリコール5.00重量%、精製水79.29重量%、トリエタノールアミン0.20重量%を添加し、溶解させて皮膚外用剤を調製した。

【0069】(比較例1)製造例1の皮膚外用剤の組成にある発酵乳エキス10.00重量%を、1,3-ブチレングリコール10.00重量%に置換し皮膚外用剤を調製した。

【0070】(試験例1)肥厚化角質層柔軟化試験
発酵乳エキス塗布による20代の女性5名の肘部皮膚の粘弾性を測定し、発酵乳エキスの肥厚化角質部位に対する柔軟化作用を検討した。

【0071】「試験方法」

a. 試験方法

被験者の左肘部皮膚に製造例1の皮膚外用剤を、右肘部皮膚に比較例1の皮膚外用剤を4週間1日2回、1回量約0.15mL毎日塗布した。測定は伸身した肘部皮膚の粘弾性を皮膚測定器(日本ユーロテック製 CUTOMETER SEM 474)にて測定し、塗布前の皮膚と比較した。測定条件は5秒の間隔をおいて500mbの陰圧を5秒間かける操作を2回繰り返す。被験者5名の粘弾性の平均値と標準誤差を算出

した。

b. 測定原理

皮膚を測定器により吸引させて、次に陰圧を解除することにより、皮膚の戻り方を波形という形で測定して、それを元に皮膚の粘弾性を評価した。

【0072】「評価方法」測定器より検出される波形例として図1がある。この図においてUv値は皮膚の粘弾性の特に塑性（力を加えると連続的に変形し、力を解除しても変形した状態から元の状態に復帰しにくい性質）部分を示し、塑性度は数1に示す式により算出することが

でき、皮膚の弾力性を示す弾力度は数2で示す式により算出することができる。肥厚化角質層の柔軟化を検討するにあたり、塑性度と弾力度が共に低下することを柔軟化されたと定義した。

【0073】（数1）

塑性度 = Uv / Ue （値が高いほど塑性度が高い）

【0074】（数2）

弾力度 = Ur / Uf （値が1に近いほど弾力度が高い）

【0075】

【表1】肘部皮膚の塑性度に対する影響

製造例 1		比較例 1	
塗布前	塗布後	塗布前	塗布後
0.367±0.039	0.279±0.026	0.254±0.017	0.296±0.027

【0076】

【表2】肘部皮膚の弾力度に対する影響

製造例 1		比較例 1	
塗布前	塗布後	塗布前	塗布後
0.268±0.027	0.205±0.022	0.256±0.027	0.246±0.009

【0077】（試験例1の結果）製造例1及び比較例1の皮膚外用剤を肘部皮膚に塗布した場合の塑性度の変化を表1に、弾力度の変化を表2に示した。製造例1の皮膚外用剤を肘部皮膚に塗布した場合、比較例1と比べて塑性度及び弾力度共に、塗布前に比べて明確に数値が低下しており、肥厚化角質層がより効果的に柔軟化したことが明らかとなった。

【0078】（試験例2）肘部皮膚状態改善試験

製造例1又は比較例1の皮膚外用剤を20代の女性5名の肘部皮膚に4週間1日2回、1回量約0.15mL毎日塗布し、4週間後の皮膚状態の改善状況を、〔硬質化柔軟性〕〔黒ずみ〕〔肌荒れ〕の項目が達成されたか否かによって評価した。

【0079】

【表3】肘部皮膚状態改善試験

	製造例 1	比較例 1
硬質化 柔軟性	5	0
黒ずみ	3	0
肌荒れ	4	1

【0080】（試験例2の結果）4週間後の皮膚状態の改善状況を表3に示した。各項目の数値は被験者5名のうち改善されたと回答した人数を示した。製造例1の皮膚外用剤を肘部皮膚に塗布した場合、比較例1と比べて明らかに皮膚の硬質化柔軟性や黒ずみ、肌荒れが改善されていた。

【0081】（処方例）肥厚化角質層柔軟化剤又は皮膚化粧料組成物、洗浄用化粧料組成物及び浴用剤の製造
上記の評価結果に従い、以下にその処方例を示すが、各処方例は各製品の製造における常法により製造したもので良く、配合量のみを示した。又、本発明はこれらに限定されるわけではない。

【0082】

(処方例1) 乳液	重量%
1. スクワラン	5.0
2. オリーブ油	5.0
3. ホホバ油	5.0
4. セチルアルコール	1.5
5. グリセリンモノステアレート	2.0
6. ポリオキシエチレン(20)セチルエーテル	3.0
7. ポリオキシエチレン(20)ソオルビタンモノオレート	2.0
8. 1,3-ブチレングリコール	1.0
9. グリセリン	2.0
10. 製造例1の発酵乳エキス	5.0
11. 防腐剤(パラオキシ安息香酸エステル)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0083】

(処方例2) 乳液	重量%
1. スクワラン	8.0
2. ホホバ油	7.0
3. パラアミノ安息香酸グリセリル	1.0
4. ウロカニン酸エチル	1.0
5. ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩	1.0
6. セチルアルコール	1.5
7. グリセリンモノステアレート	2.0
8. ポリオキシエチレン(20)セチルエーテル	3.0
9. ポリオキシエチレン(20)ソオルビタンモノオレート	2.0
10. 1,3-ブチレングリコール	1.0
11. グリセリン	2.0
12. 製造例1の発酵乳エキス	3.0
13. ゲンノショウコ熱水抽出液	1.0
14. 防腐剤(パラオキシ安息香酸エステル)	適量
15. 精製水	100とする残余

【0084】

(処方例3) 化粧用オイル	重量%
1. 流動パラフィン	30.0
2. スクワラン	20.0
3. オリーブ油	20.0
4. パルミチン酸イソプロピル	10.0
5. 製造例1の発酵乳エキス	3.0
6. グレープフルーツ果実又は葉熱水抽出液	3.0
7. 米糠熱水抽出液	1.0
8. オリーブ油	1.0
9. シア脂	1.0
10. ブチルヒドロキシアニソール	0.1
11. ビタミンE誘導体	0.1
12. 防腐剤(塩化ベンザルコニウム)	適量
13. 香料(カミツレ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0085】

(処方例4) 化粧水	重量%
1. グリセリン	5.0

2. 1,3-ブチレングリコール	5.0
3. 酸 (20E.0)	1.0
4. エタノール	15.0
5. 製造例1の発酵乳エキス	3.0
6. グレープフルーツ果実又は葉熱水抽出液	1.0
7. セイヨウトチノキ全草50%エタノール抽出液	1.0
8. キウイ果実50%エタノール抽出液	1.0
9. 抗菌・防腐剤 (ラクトフェリン溶液)	適量
10. 香料 (西洋薄荷水)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0086】

(処方例5) 化粧水	重量%
1. ソルビット	2.0
2. POE (20) オレイルアルコール	1.0
3. エタノール	15.0
4. 製造例1の発酵乳エキス	3.0
5. ゲンチアナ全草50%エタノール抽出液	1.0
6. ハマメリス葉又は樹皮50%エタノール抽出液	1.0
7. アラントイン	0.2
8. 収れん剤 (スルホ石炭酸亜鉛)	0.2
9. 抗菌・防腐剤 (チアミンラウリル硫酸塩)	適量
10. 香料 (ラベンダー水)	適量
11. 精製水	100とする残余

【0087】

(処方例6) 2層式化粧水 (液～液型)	重量%
1. スクワラン	8.0
2. POE 酸	0.3
3. ソルビット	1.0
4. エタノール	15.0
5. 製造例1の発酵乳エキス	2.0
6. ムラサキ (紫根) 根50%プロピレングリコール抽出液	2.0
7. 陳皮果実30%エタノール抽出液	1.0
8. アスコルビン酸	0.2
9. 収れん剤 (カラミン)	0.1
10. 防腐剤 (フェノキシエタノール)	適量
11. 香料 (レモン水)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0088】

(処方例7) カーミンローション (液～固型)	重量%
1. グリセリン	3.0
2. 1,3-ブチレングリコール	5.0
3. エタノール	15.0
4. 酸化鉄 (ベンガラ)	0.2
5. 酸化亜鉛	0.5
6. カオリン	2.0
7. 製造例1の発酵乳エキス	5.0
8. 紫蘇葉50%プロピレングリコール抽出液	2.0
9. 西洋菩提樹花又は葉50%プロピレングリコール抽出液	1.0
10. 緑茶葉又は茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
11. カンファー	0.2

12. フェノール	0.03
13. 防腐剤 (感光素201&401号)	適量
14. 香料 (イランイラン水)	適量
15. 精製水	100とする残余

【0089】

(処方例8) パック	重量%
1. ポリビニルアルコール	15.0
2. カルボキシメチルセルロースナトリウム	5.0
3. プロピレングリコール	3.0
4. エタノール	10.0
5. 製造例1の発酵乳エキス	2.0
6. オタネニンジン根茎30%エタノール抽出液	1.0
7. アカヤジオウ根茎又は根皮50%プロピレングリコール抽出液	1.0
8. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸エステル)	適量
9. 香料 (バラ水)	適量
10. 精製水	100とする残余

【0090】

(処方例9) ピールオフパック	重量%
1. グリセリン	5.0
2. プロピレングリコール	4.0
3. ポリビニルアルコール	15.0
4. エタノール	8.0
5. ポリオキシエチレングリコール	1.0
6. パントテニルエチルエーテル	1.0
7. 製造例1の発酵乳エキス	2.0
8. センブリ全草50%エタノール抽出液	1.0
9. シモツケソウ花50%プロピレングリコール抽出液	1.0
10. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸エステル)	適量
11. 香料 (檜葉水)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0091】

(処方例10) コールドクリーム	重量%
1. サラシミツロウ	11.0
2. 流動パラフィン	22.0
3. ラノリン	10.0
4. オリーブ油	5.0
5. カミツレ油	5.0
6. パーム油	5.0
7. ホウ砂	0.5
8. 製造例1の発酵乳エキス	2.0
9. パリエタリア葉抽出液 (エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1抽出溶媒)	2.0
10. ドクダミ葉抽出液 (エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1抽出溶媒)	2.0
11. 白樺樹皮抽出液 (エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1抽出溶媒)	2.0
12. 液状シア脂	1.0
13. 防腐剤 (アクリノール)	0.1
14. 香料 (菩提樹水)	適量
15. 精製水	100とする残余

【0092】

(処方例 1 1) エモリエントクリーム	重量%
1. ステアリン酸	2.0
2. ステアリルアルコール	7.0
3. 還元ラノリン	2.0
4. スクワラン	5.0
5. オクチルドデカノール	6.0
6. ポリオキシエチレンセチルエーテル (25E.O.)	3.0
7. 親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0
8. プロピレングリコール	5.0
9. 製造例 1 の発酵乳エキス	3.0
10. 芍薬根 50% プロピレングリコール抽出液	1.0
11. カミツレ花 50% プロピレングリコール抽出液	1.0
12. 防腐剤 (パラベン)	適量
13. 香料 (丁子水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0093】

(処方例 1 2) 洗顔クリーム	重量%
1. ミリスチン酸	25.0
2. ステアリン酸	5.0
3. 牛脂脂肪酸	5.0
4. プロピレングリコール	10.0
5. 水酸化カリウム	6.0
6. ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	6.0
7. 製造例 1 の発酵乳エキス	3.0
8. ローズマリー葉又は花熱水抽出液	2.0
9. ヘチマ果皮又は果実粉末	2.0
10. グリチルレチン酸ジカリウム	1.0
11. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1
12. 香料 (ベルガモット水)	適量
13. 精製水	100とする残余

【0094】

(処方例 1 3) 洗顔クリーム	重量%
1. ステアリン酸	10.0
2. パルミチン酸	10.0
3. ミリスチン酸	12.0
4. ラウリン酸	4.0
5. オレイルアルコール	1.5
6. ラノリン誘導体 (E.O. 付加物)	1.0
7. グリセリン	18.0
8. 水酸化カリウム	6.0
9. 製造例 1 の発酵乳エキス	5.0
10. ローヤルゼリー抽出液	1.0
(エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1)	
11. グリチルレチン酸	1.0
12. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1
13. 香料 (ヨモギ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0095】

(処方例 1 4) ボディーソープ	重量%
---------------------	-----

1. ラウリン酸カリウム	15.0
2. ミリスチン酸カリウム	5.0
3. プロピレングリコール	5.0
4. ヒメマツタケ70%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
5. 製造例1の発酵乳エキス	3.0
6. ワカメ70%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
7. メリロート花又は葉70%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
8. アマチャヅル葉又は茎70%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
9. ウスベニアオイ花又は葉50%プロピレングリコール抽出液	2.0
10. ポリエチレン末	0.5
11. ヒドロキシプロピルキトサン溶液	0.5
12. アミノ酸 (グリシン、グルタミン等)	0.5
13. 防腐剤 (ウンデシレン酸、フェノール)	適量
14. pH調整剤	適量
15. 香料 (ラベンダー水)	適量
16. 精製水	100とする残余

【0096】

(処方例15) サンスクリーン化粧品 (O/W型)	重量%
1. オキシベンゾン	2.0
2. パラメトキシケイ皮酸オクチル	5.0
3. スクワラン	10.0
4. ワセリン	5.0
5. ステアリルアルコール	3.0
6. ステアリン酸	3.0
7. グリセリルモノステアレート	2.0
8. ポリアクリル酸エチル	1.0
9. 1,3-ブチレングリコール	6.0
10. エデト酸二ナトリウム	0.1
11. トリエタノールアミン	1.0
12. 二酸化チタン	5.0
13. 製造例1の発酵乳エキス	0.5
14. ヤグルマギク50%ジプロピレングリコール抽出液	0.5
15. 葛根50%ジプロピレングリコール抽出液	0.5
16. 防腐剤 (パラベン)	適量
17. 香料 (林檎水)	適量
18. 精製水	100とする残余

【0097】

(処方例16) サンスクリーン化粧品 (オイルタイプ)	重量%
1. 流動パラフィン	70.0
2. パラアミノ安息香酸エチル	1.0
3. テトラヒドロキシベンゾフェノン	1.0
4. セチルオクタノエート	25.0
5. 製造例1の発酵乳エキス	0.5
6. ゴボウ根50%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
7. ハトムギ全草50%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
8. 茴香果実30%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
9. 酸化防止剤 (ブチルヒドロキシトルエン)	適量
10. 香料 (ヤグルマギク水)	適量

【0098】

(処方例17) クリームファンデーション (O/W型)	重量%
-----------------------------	-----

1. ステアリン酸	4.0
2. モノステアリン酸グリセリン	3.0
3. セタノール	1.5
4. ミリスチン酸イソプロピル	7.0
5. 流動パラフィン	10.0
6. サラシミツロウ	3.0
7. トリエタノールアミン	1.5
8. グリセリン	3.0
9. ベントナイト	1.0
10. 酸化チタン	8.0
11. 2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン	8.0
12. カオリン	3.0
13. タルク	3.0
14. 着色顔料(黄酸化鉄)	1.0
15. 製造例1の発酵乳エキス	0.5
16. トウキンセンカ花50%1,2-ブチレングリコール抽出液	0.5
17. 防腐剤(フェノキシエタノール)	適量
18. 香料(ローズ水)	適量
19. 精製水	100とする残余

【0099】

(処方例18) 顆粒浴用剤	重量%
1. 炭酸水素ナトリウム	58.0
2. 無水硫酸ナトリウム	30.0
3. ホウ砂	2.0
4. 製造例1の発酵乳エキス	2.0
5. センキュウ熱水抽出液乾燥粉末	8.0
6. ナツメ全草熱水抽出液乾燥粉末	2.0
7. 温州ミカン50%エタノール抽出液乾燥粉末	1.0
8. 色素(グンジョウ緑)	適量

【0100】

(処方例19) 顆粒浴用剤	重量%
1. 炭酸水素ナトリウム	58.0
2. 無水硫酸ナトリウム	30.0
3. ホウ砂	4.0
4. 製造例1の発酵乳エキス	2.0
5. 紅茶熱水抽出液乾燥粉末	1.0
6. 菖蒲葉又は根70%エタノール抽出液乾燥粉末	1.0
7. 林檎果汁粉末	1.0
8. 色素(グンジョウ、水酸化クロム)	適量
9. 香料(ローマカミツレ水)	適量

【0101】(処方例20) 被覆保護剤

ガーゼ又はリニメント布に製造例1の発酵乳エキス、抗生物質、抗炎症剤等、適量を混合した処方液を含浸させ、外傷部に添付する。又、製造例1を直接、局所に散布し、ガーゼ等で被覆しても良い。

【0102】

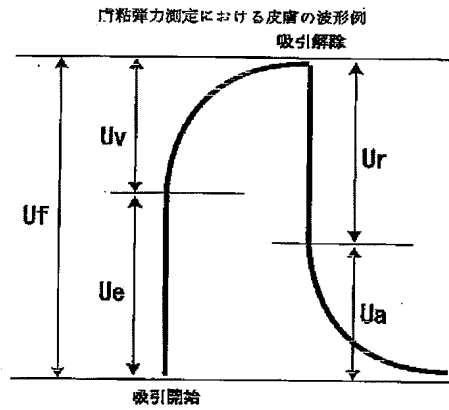
【発明の効果】本発明の発酵乳エキスを有効成分として含有する肥厚化角質層柔軟化剤又は皮膚化粧料組成物、洗浄化粧料組成物及び浴用剤は肥厚化角質層柔軟化作

用に優れ、柔軟化すると同時に更に黒ずみ等の美容上の改善、肌荒れ等の皮膚疾病を改善するものであり、天然物由来であることから人体に対する安全性も高く、肥厚化角質層に関する美容や医療において極めて有用なものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】皮膚の粘弾性を算出する指標となる、測定器で検出される皮膚の波形例を示す図である。

【図1】



フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA031 AA072 AA082 AA112
AA122 AB032 AB152 AB242
AB312 AB352 AB432 AB442
AC022 AC072 AC102 AC122
AC132 AC182 AC242 AC342
AC352 AC422 AC442 AC472
AC482 AC532 AC542 AC552
AC582 AC642 AC692 AC852
AD022 AD092 AD112 AD322
AD532 AD642 AD662 CC02
CC04 CC05 CC06 CC07 CC19
CC23 CC25 DD16 DD22 DD27
DD32 EE11 EE41
4C087 AA01 AA02 BB39 MA63 ZA89
ZA91